御神船

「御神船」とは、伊達藩の時代、物資流通や大漁祈願の海渡りに活躍した船が称賛されて「御神船」と呼ばれるようになりました。

2018（平成30年）8月号

不許複製：禁無断転載・引用

Vol.152 仙水グループ広報

仙台水産ホームページ www.sendaisuisan.co.jp

さかなで元気 ～食の楽しさ・豊かさを提供します～

第３４回生鮮合同提案会『フレッシュ食の祭典』《予告》

出展メーカー様と多彩な提案

仙水グループ仙台水産は９月５日、仙台卸商センター「サンフェスタ」（仙台市若林区）で、第34回生鮮合同提案会「フレッシュ食の祭典」を開催します。惣菜・日配）が勢ぞろいして総合的に提案します。出展メーカーは２００社以上を数え、来場者数でも実質東北一の規模を誇ります。

▶各出展ブース前は、試食や説明を求める来場者で大賑わいをみせた（昨年）

未来の水産惣菜も

今年の提案会も出展メーカー様のご協力により、高品質で差別化した商品と魚の良さ、おいしさを知ってもらえる提案会にしていきます。

「さかなで元気」ゾーンでは、当社モニターを活用して得た知見と仙水グループの惣菜管理士81人の活動を基に〝未来の水産惣菜売場〟を企画しました。地元で生産されたこだわり商品や、原料が豊富なイワシやワタリガニの各種商品、煮魚や焼き魚など簡便性を活かした水産惣菜を一堂に提案します。

仙水グループ各社の皆さん、提案会の大成功に向けグループの総力を挙げて臨みましょう。

「さかなで元気」テーマ

仙水グループ恒例の一大イベント「フレッシュ食の祭典」。今年のテーマは「さかなで元気～食の楽しさ・豊かさを提案します～」。

会場となる仙台卸売市場近くのイベントホール「仙台卸商センター産業見本市会館・サンフェスタ」で、今年も昨年に続き、青果、精肉を含めた生鮮４品（水産、青果、精肉、

東北振興・人材育成を目指して

東北福祉大学と包括的連携協定を結ぶ

仙台水産は７月２６日、東北福祉大学と東北振興・人材育成を目指し連携して取り組んでいくための包括的連携協定を結びました。

協定は、両者が東北の振興を目指して人的・物的資源の活用により地域創生、人材育成に連携、協力して取り組むことが目的です。

同大学で行われた締結式には大学の大谷哲夫学長、大竹榮副学長、鈴木康夫マネジメント学部長ら、当社から島貫文好会長、熊谷純智社長、石森克文専務らが出席しました。

冒頭のあいさつで大谷学長は「本学が掲げている地域創生に学生が参加することに意義がある。共に手を取り合って進めていければと考える」と述べ、島貫会長は「当社は事業で社会にどう貢献して行くかで行動してきた。今後も漁業の再生を通して社会に貢献したい。皆様と共にさらに促進させたい」と抱負を語りました。

▲締結後、握手する大谷学長と島貫会長（左）

東北の水産業の成長産業化や担い手づくり、復興支援など、具体的運用に関しては今後、同大学企画部と当社営業企画部が実務レベルで随時、細部を協議していくことになります。

平成３０年 ８月 我が社に笑顔のこの人あり No.66

仙台丸水配送
市場部 課長
宮澤 純 さん

暑い日が続き、あまり飲まない私がビールを。健康診断も近くあるので、お腹を気にしながら飲みすぎないよう健康第一でこの夏乗り切るぞ!!

イーネット
情報処理部
齋藤 愛 さん

入社してあっという間に14年が経ちました。たくさんの後輩ができたので、頼りになる先輩になれるよう、日々努力していきたいと思います。

仙水冷蔵
冷蔵課
小川 文哉 さん

入社して４か月経ちました。最初に比べ、大変だった作業も少しずつこなしています。今後も、安全第一に仕事ができるよう笑顔で頑張ります。

仙台水産
遠海部 遠海課
小野寺 良太 さん

入社、早くも４か月。覚えることが沢山あります。趣味の釣りで気分転換しつつ、早く会社に貢献できるよう、笑顔で精一杯頑張っていきます。

仙台丸水配送
市場部
鈴木 涼太 さん

私の自己アピールは笑顔なとこ。趣味はドライブ。今、頑張っていることは仕事で怒られないようにすること。早く仕事を覚えミスを無くします。

仙台水産
塩干部 魚卵課
佐藤 ふみ子 さん

入社して４ヶ月ほど経過しました。春がついこの間のように思えます。時が経つのは本当にあっという間だと感じます。仕事、笑顔で頑張ります。

仙台宮水
近海特種課 課長
佐藤 拓郎 さん

前回の健診でメタボ予備群でした。現実を受け止め適度な運動、バランスのよい食事を心がけています。規則正しい生活習慣で目指せ脱メタボ!!

東 海
加工惣菜部
首藤（しゅとう） 聖（しょう） さん

入社５ヶ月目、少しずつ仕事に慣れてきました。趣味の野球観戦などにも行って充実した日々を送っています。体調を管理して頑張ります！

鈴力水産
太物課 課長補佐
遠藤 博弥 さん

部門に捉われず、お客様を第一に考えどんな仕事にも取り組む。目の前の仕事を大切に、先に繋がるよう感謝を忘れず、一日一日を大事にしたい。

今月の旬のおすすめは！ シラス
シラスに含まれる栄養素をまるごと摂取

シラスは良質なタンパク質やビタミンＢ１、Ｂ２、カルシウムが豊富で、これら栄養素をまるごと摂取できます。

白い小魚の「シラス」とは、カタクチイワシやウルメイワシ、マイワシ、イカナゴなど、体に色素が無い、白い稚魚の総称です。

かつてシラスの北限は福島県でしたが、近年は宮城県にも魚群が回遊してくるようになりました。２０１６年に宮城県が初めてシラス漁を許可。翌年７月から名取市閖上で「北限の釜揚げしらす」として水揚げが始まり、今年１月、県内の水産加工品の品評会で最高賞の農林水産大臣賞を受賞するなど高い品質を誇っています。

※レシピは仙台水産のＨＰ「ムッシュ廣澤のレシピバンク」でどうぞ。

▲夏にぴったりの簡単メニュー、シラスうどん

不許複製

春夏秋冬

島貫 文好

No.112

ヤマ場・お盆商戦・提案会・市場法改正・漁業権

今期前半戦の最大のヤマ場、盆商戦が活発だ。古い言い伝えでは「盆は八百屋がつくり、正月は魚屋がつくる」とあったが、東北では夏祭りの観光客や帰省客の多さは冬の正月を上回る。当社のモニターによる調査でも確実に消費は増えヤマ場を迎える。予算ウェートも高く、スベルわけにはいかない。年末需要は多種多様で焦点が定まらなくなったが盆を含めた夏場商戦は絞り込み易い。商談を通じてお客様への働きかけを強め、仙水グループの総力をあげて頑張ろう。まさに前半戦のヤマ場だ。「グループ（皇国）の興廃この一戦に有り、各員一層奮励努力せよ」（東郷平八郎の電文）

▼加えて9月5日には恒例の提案会が卸町サンフェスタで開催する。これで景気を付けて年末商戦に突入する。今年で第34回目の生鮮合同提案会（フレッシュ食の祭典）。テーマは「さかなで元気～食の楽しさ・豊かさを提供します～」。昨年は3，500名の実績。今年は4，000名の集客を実現したい。そのために自ら他の展示会3ヶ所の視察・研修を行った。モニターを活用して食卓ニーズなどを把握し、質の高い良い提案を目指す。お客様の来場が評価基準となる。仙水グループの全員がお客様の勧誘を図る。ベンダー（仲卸）の働きかけが最も重要となる。私の担当部署の反応も上々だ。今年もタイから参加、マレーシア、ベトナムからは初参加となる。香港は現地のフェアと重なり、仙台水産と桃浦から2名を派遣する。今年の提案会のキーワードは「健康」。世界に冠たる長寿国を築いたのは魚を食べたから。魚がヘルシーで健康に最適な事に異論はないはず。しかし、中身が変わった。8月8日の日経新聞で4～6月の総務省家計調査の結果を発表している。それによると、調理食品の支出が最高額（2人世帯で月平均9，200円強）となった。日本の食卓が変化し、消費は弁当、冷凍食品、惣菜品などの即食簡便型（すぐ食べられて簡単で便利な商品）に変化している。こうした傾向を受けて、今年の商品提案はより惣菜品に力を入れる。いわゆる寿司や弁当も念頭に水産惣菜のカテゴリーを完成させたい。仕組みづくり、商品づくり、売場づくりを提案し、大胆に差別化を図る計画だ。幸いグループには81名の惣菜管理士がいる。各仲卸に調理室を設置し、仙台ハセップの取得を目指している。準備は整った。魚は売れる。勢いをつけよう。

▼2年越しの卸売市場法改正もヤマ場を迎えた。法案は私たちに新旧対照案を示すまでに進行した。後のスケジュールは農水省が政令、省令の基本方針を示し、パブリックコメントにかけるなど必要な手続きを行って10月末に決定する予定だ。改正内容は、共通の取引ルールを遵守し、公正・安定的に業務運営を行える卸売市場を国が認定する形に変わった。共通のルールとは6項目あり、今までと変わらないもので、仙台市場ではまず問題ないと思われる。問題となるのは、その他の取引ルール（第三者販売の禁止、直荷引きの禁止、商物一致）についてだ。開設者が地域事情を勘案して条例で定めることと決定したことである。面倒なことを国は地方に丸投げした。これが規制緩和なのか疑問に思う。しかし、仙台市場は他市場と比べルールに則って整然と運営している方だ。問題点は話し合いで解決し、市民のための市場発展に尽くすべきと思う。他市場は、決済制度、買参制度、仲卸の成立ちなど整然としたものではなく、特に今回は卸、仲卸、小売りの互いの利害がからむだけに条例決定は前途多難と思われる。

▼大きなヤマ場を迎えたのは、桃浦合同会社の漁業権問題。5年毎の更新で、この8月31日に改定期を迎えた。再度、漁協の反対運動を覚悟したが、6月1日に政府は農業改革と同様、水産業の成長を目指して漁業の改革方針を発表した。その中で漁業権を漁協や地元漁業者へ優先的に割り当てていた法規定を廃止することを決定した。これは復興特区法が消滅しても知事認可で桃浦合同会社の存続が保証され、恒久安定化が図られたことを意味する。やっと大きな改革が動き出した。伏線はあった。桃浦の訪問客の中に多くの政治家や学者がいた。安倍首相や小泉進次郎氏、平将明氏も来た。八田教授や小松、勝川教授なども。2月には水産関係の官僚トップが視察に来ている。この5年間、応援してくれたお客様に心から感謝申し上げる。お客様の支持があったことで今がある。顧客開発、商品開発も順調だ。今後は東北福祉大学の協定のもとに県漁協地区支所との協調も図りたい。今年は宮城水産高校から5名もの就職希望があった。地域で認められたと理解し素直に嬉しい。9月3日には漁師の若手が香港のフェアに参加する。人材育成も継続している。8月8日現在、台風13号が近づいている。カキ棚が危ない。第一次産業にヤマ場は尽きない。

（8月8日筆）

繁忙期前に藤本副市長が視察

盆商戦に入った８月 ３ 日早朝、仙台市の藤本章副市長が仙台卸売市場の入荷状況の視察と関係者の激励に来場。

▲熊谷社長（右端）の説明を聞く藤本副市長（中央）

各卸売市場で関係者らを激励しながら市況を確認。朝食懇談会では各業界代表者らと意見交換を行いました。

みやぎ水産の日でホタテを提案

仙台水産は８月１３日早朝、市場内で今が旬のホタテの提案を行いました。春から夏にかけて三陸の豊富なプランクトンを食べて育つ宮城県産ホタテガ

▲ホタテガイは宮城を代表する浜の幸

イ。この時期のホタテガイは身がプリプリで肉厚、豊富な栄養素に加え良質なタンパク質がとれる食材です。和洋中、様々な料理でお楽しみください。

実践型ビジネスマナー研修

７月２４日、２６日の両日、仙水グループの若手社員、社内教育担当者を対象にした「接遇応対ビジネスマナー」の研修会を開きました。講師に㈱七十七

▲ペアを組み、来客応対のマナーを学ぶ受講生

銀行中央市場支店長の高橋理氏を招き応対の心構えや会話マナーを聴講後、来客と電話応対の実践指導をしていただきました。２日間で延べ６０人が研修。

見学会で魚食普及 / 仙水グループ

ようこそ！夏休み親子市場見学の皆さん

おさかな普及協会 / やさい・くだもの普及委員会主催

８月１８日早朝、仙台おさかな普及協会とやさい・くだもの普及委員会主催の夏休み親子市場見学会が開かれ、小学生親子１４組３５人が市場を見学に訪れました。毎年恒例の人気イベントで、親子は売場に並べられた鮮魚や活魚、活気あるセリの様子を見学。東海（大庭武彦社長）では９１㌔のメバチマグロの解体を見学しました。

▲活魚（ヒラメ）をみて喜ぶ子どもたち

人気イベント / 食育ＮＰＯおむすびの親子市場探検隊

７月２４日早朝、夏休みに入ったばかりの小学生親子１５組３０人が見学に訪れました。「親子で市場を探検しよう！」親子は広い売場に整然と並べられた鮮魚や威勢のよいセリにビックリ。鈴力水産（本郷光輝社長）ではマグロの解体を見学し、特別に中落ちの試食も。

「おむすび」（清水智子代表）が毎年企画する人気イベントです。

▲整然と並べられた鮮魚を見てメモをとる親子

匠の技にふれる / せんだい職人塾・親子ふれあい探検隊

７月２１日、せんだい職人塾（仙台市市民生活課主管）の親子ふれあい探検隊の２４人が東海（大庭武彦社長）を訪れ、鮪解体職人の石村大次長の技を見学しました。

見事な包丁さばきで解体する様子を間近で見学、質問コーナーでは鮮度の見分け方や部位ごとのおいしさ、道具の包丁などについて質問があり答えました。

▲石村次長の見事な包丁さばきに皆ビックリ

サンマ本格入荷 / 今シーズンの豊漁に期待

８月１７日早朝、仙台卸売市場に北海道東部沖などで獲れた新物サンマ約１０㌧が本格入荷し、多くの仲買人や小売店の関心を集めセリも活気づきました。入荷したサンマは１尾 130 ㌘サイズが中心。遠海部の坂井義昌執行役員部長は「魚体は昨年よりひと回り大きく、身も引き締まり脂のりも良い。今後、大型船の出漁も控えており更に大量の入荷が見込める。おいしい新物サンマを皆さまに提供したい」と話しています。

サンマ漁はこれからが本番。９月に入ると三陸の各漁港での水揚げも始まります。一昨年、昨年と過去に例をみないほどの不漁が続きました。水産庁が７月末に発表した長期漁海況予報では４８年ぶりの不漁だった前年と比べ「資源量が回復し復調の兆し」とのこと。

秋の味覚を代表する新物サンマ。豊漁が続くよう、皆さんが期待しています。

▲入荷した生サンマ（17 日早朝）